

木版画 出雲郷小児童作品



① 4年



② 4年



③ 4年



④ 4年



⑤ 4年



⑥ 4年



⑦ 4年



⑧ 4年



⑨ 4年



⑩ 4年



⑪ 4年



⑫ 4年



⑬ 4年



⑭ 4年

版画の種類	木版	学校名	出雲郷 小学校		指導者	永島 敬子
題材名	4年生の思い出		学年	4年生	時間	12時間
<p>題材のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の体験の中から、木版画で表現したいことをスケッチし、構成を練って自分の思いが表れた下書きを描くことができる。</li> <li>○ 自分の思いを伝えられる彫りを工夫し、きちんと刷ることができる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の体験の中から、描きたいテーマを考え、構想を練ることができる。</li> <li>・ 喜びや驚き、躍動感など、テーマと表現したいこと（題とも重なる）を重ね合わせながら、下書きを描くことができる。</li> <li>・ どこを彫るのか残すのか、また、黒白の割合を考えることができる。</li> <li>・ 自分の思いを伝えることができるような彫り方を工夫する。</li> <li>・ ためし刷りを見て、さらによくするための工夫をする。</li> <li>・ 正しい手順で刷ることができる。</li> </ul>						
木版画の注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初めての木版画。初めての彫刻刀の使用。（3年時までは三角ニードルは使用している）</li> <li>・ 板はB4程度、合板が彫りやすい。（A3は5・6年生）</li> <li>・ B4の板を4分の1に切り、1～2枚使って、彫り方の練習をする。（教師が師範）</li> <li>・ 彫るための中心は、平刀、切り出し。三角刀と大丸刀は、使わない。小丸刀は効果的などきだけ使用。 （三角刀や大丸刀は彫りやすいため、無神経な線をどんどん彫っていくので、経験を積んでいろいろな彫り方に慣れてから使うことにする。三角刀で、切り出しと同じくらいの細くて深い線が彫れるようになったら使用してよいと児童に説明）</li> <li>・ 早く作品を彫りたい、うまく彫れるぞ、と思うまで、彫る練習をさせたほうがよい。</li> <li>・ 線は、細く深い線がよいこと、面は触ってみて感触で確かめながら掘り進むのがよいことなどを話す。</li> </ul>					

授業の流れ	ワンポイントアドバイス・裏技
<p>1. 木版画のよい作品（児童の作品）を見る。</p> <p>2. 木版の彫り方を知り、ためし彫りをする。</p> <p>3. 体験の中から、何を表現したいか考える。</p> <p><b>本年度の実践例</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 躍動感のある音楽会「お祭り」でのみこしや太鼓やたる</li> <li>・ 総合の学習での体験を中心として <ul style="list-style-type: none"> <li>ザリガニ どじょう</li> <li>桑の木・桑の実</li> <li>カイコ</li> <li>牛</li> <li>ケナフ栽培</li> <li>七輪体験</li> </ul> </li> </ul>	<p>◆ 作品は、B4程度にコピーして保存しておき、黒板に掲示して児童に見せる。版種ごと、テーマごと、学年ごとに分けておくと指導しやすい。</p> <p>◆ その作品のどんなところがいいのか話すとよい。</p> <p>◆ 版画板を学級費で買って置き、切って練習用にする。電動のこぎりで切れる。児童と電動糸のこで切ったこともある。</p> <p>◆ 彫り方のビデオを見てもよい。</p> <p>◆ よい彫りとよくない彫りが分かるように指導する。</p> <p>・ 体験したことで、版画に適している題材をピックアップしておき、写真など提示して選択させる。</p> <p>・ ただ何かを描くというのではなく、そこでどんなことを表現したいのか考えさせる。</p> <p>例：「お祭り」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>←音が聞こえるように。思い切りばちでたたいたよ 版画①</li> <li>←たるの「どーん」という音が感じられるようにしたい 版画②</li> <li>←みこしのお練の元気のよさを出したい 版画⑬</li> </ul> <p>例：生き物と自分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>←ザリガニ でっかいつめ、世話をする楽しさうれしさ 版画③</li> <li>←ザリガニ さがしに行って、やつとつかまえた喜び 版画④</li> <li>←どじょうがぬるぬる苦勞した 版画⑤</li> <li>←アマガエルを育てたよ かわいいよ 版画⑥</li> <li>←飼っているカイコが繭を作り始めたよ 版画⑦</li> </ul> <p>例：牛と〇〇</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>←おじさんがブラシかけをするといい顔するよ 版画⑧</li> <li>←ぼくがふんの片付け手伝うよ 版画⑨</li> <li>←ぼくのあげたえさを食べてくれた。うれしいよ。 版画⑩</li> </ul> <p>例：〇〇を育てたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>←ケナフのねっこはすごい！抜くの苦勞したよ。 版画⑪</li> </ul>

<p>4. 下書き完成  一応の完成→  さらに練る  →完成</p> <p>5. 板に写す</p> <p>6. 彫る</p> <p>7. 刷る</p> <p>8. カレンダー作り</p>	<p>←ヘチマが2回のベランダより高く  伸びたよ 版画⑫</p> <p>例：桑の実とり  ←木に登ってたくさん取ったよ  版画⑬</p> <p>◆スケッチに、写真は参考にするが、写しては描かない。写真をそのまま写しては自分の思いは表現できないことを話しておくことが大切。</p> <p>◆教師と話し合い、大きさや向きを変えるとよくなるのではないか考えさせる。児童のスケッチをコピーして切り貼りさせたり、拡大しておいたりして考えさせる。</p> <p>◆下書きには、しっかりと時間をかける。どんなによい彫りをして、下書きがよくなければ、自分で満足していく作品にならない。</p> <p>カーボン紙を使用する。文字は逆になるので注意。</p> <p>○ 彫る練習 →版画の特徴の欄参照  ○ 彫刻刀の使い方</p> <p>7. 刷り方の基本を教える。  ◆中性インク  練り板は、プラスチックのものや、練り厚紙がある。練り紙が使用したり片付けたりしやすい。  霧吹きでちょっと湿り気を  何度も薄くインクをつけて  真ん中から外へ  ずれない工夫（二人組み）  黒は、真っ黒に  すべりが悪いときは  髪の毛の油をつけるとよい</p> <p>8. 市販のカレンダーでもよい。</p>
--	--

5 発展（こんなこともできるかな）

◆版画板をきれいに洗ってから、色をつけ、ニスを塗る。すてきな飾りになります。

6 取り組んだ先生から ひとことアドバイス

◆大事なものは、何を表現するか。適当な下書きで長時間彫らせるのは、時間の無駄だと思います。（版画に限りませんね）賞に入るかどうかとかではなく、児童が、よくやったな、いい作品ができたな、力がついたな、と自分で満足できるよう、真剣勝負で図工の時間の指導にあたりたいものです。